



情報ボックス

ヘルスインプクトアセスメントはすべての政策に健康の視点を加える分野間連携の実践的手続き

第33回日本健康教育学会学術大会で教育講演を開催

第33回日本健康教育学会学術大会が7月5～6日、「パートナーシップを束ねるヘルスプロモーション教育の挑戦」をテーマに日本女子体育大学烏山キャンパスで開催され、その中で産業医科大学環境疫学研究室教授の藤野善久氏が「Health Impact Assessment: Health in All Policiesと部門間連携」と題する教育講演を行った。

藤野氏は冒頭、「まちにアリーナ建設の計画があるとき、健康の専門家として何を助言しますか?」と問いかけ、ヘルスインプクトアセスメントの重要性を指摘。その上で、「健康の社会的決定要因」は、保健医療以外の政策が健康に強い影響を与えることを示唆しており、「例えば、米の価格高騰や備蓄米放出、定年延長、消費税増税といったものが健康にどのような影響を与えるのかを予測評価するもの」と説明した。ヘルスインプクトアセスメントとは、「政策、施策、事業が潜在的に集団に与える健康影響や集団内の属性の違いによる影響の違いについて判断するための一連のプロセス、方法およびツール」であり、その重要なキーワードは「分野間連携」と「健康格差対策」であると解説した。

まず、「分野間連携」については、オタワ憲章（1986年採択）の「Health Public Policy」とアデレード宣言（2010年採択）の「Health in All Policies」のニュアンスの違いを説明。「Health Public Policy」では、保健医療部門の政策立案者に健康をゴール・主軸とした政策の枠組みを求め、健康のためになる道路をつくれと高圧的になりがち。だが、健康部門にはそのような所掌がなく、健康な道路づくりを実現できるはずもなく、行き詰まってしまう。一方、「Health in All Policies」は、あらゆる政策に健康の視点を組み込む全庁的アプローチで、「各課に対し、みなさんの政策にちょっとだけ健康の視点を加えてください、お願いしますとへりくだり、政策プロセスに健康影響への配慮を求めるスタンス。これにより、分野間連携が格段にスムーズになる」とニュアンスの違いをわかりやすく説明した。部署間のやり取りでは、利害関係者の参加、情報の共有、意思決定プロセスへの参加、利害の調整（交渉と妥協）、異なる

優先事項の調整、脆弱集団への配慮、予算の調整などが求められるが、「ヘルスインプクトアセスメントのプロセスには、これらの要素が入っている」と解説。その手順として、①スクリーニング（健康との関係の確認）、②スコーピング（重要な課題の確認）、③アセスメント（健康影響の評価）、④レポート（推奨意見の作成と報告）、⑤モニタリング（意思決定への反映）を挙げ、「このプロセスで格段に分野間連携がしやすくなる」とした。

もう一方の「健康格差対策」については、「国際的に浸透・定着しているヘルスインプクトアセスメントは、健康格差是正のための有効な手法として認識されている」と述べた上、健康日本21（第二次）に「健康格差の縮小」が盛り込まれた際に「やっと出番が来たと感じたが、わが国では今なお普及していない」と指摘。「健康格差は保健医療以外の要因から生じる。原因への対策が何より重要で、健康格差は保健医療分野がいくら頑張ってもなくならない。Health in All Policiesにもとづく分野間連携が唯一の解決策」と強調した。欧州では積極的に採用されており、都市開発計画における脆弱集団への影響分析を行った「London Plan」、大規模なサービス再編時に平等と健康への影響評価を実施した「NHS（英国国民保健サービス）」、ヘルスインプクトアセスメントを法的義務として導入した「Public Health（Wales）Act 2017」、少数民族・低所得者世帯へ言及した「North London Heat & Power project」などを紹介の上、「ヘルスインプクトアセスメントは民主主義、住民参加、エンパワメントを実現するもの」とも指摘した。

大分県健康寿命V字回復にも寄与

その上で藤野氏は、ヘルスインプクトアセスメントが大分県健康政策にも採用されていると報告。大分県は、健康寿命が2010年に男39位、女34位に転落したが、これを導入し、全部局が参画する健康寿命日本一プロジェクト推進本部を立ち上げ、キックオフで藤野氏が各政策に健康の視点を少しだけ加えてほしいなどと講演した。その結果、銀行の融資利息を健康企業に有利にする施策や温泉を観光にフル活用する施策、地域交流や移動手段の確保といった施策が全庁的に促進され、2019年には健康寿命が全国一位にV字回復した。当時、本庁で同プロジェクトの推進にあたった大分県福祉保健部の藤内修二氏は、「ちょっとだけ健康の視点を加えてほしいと優しくお願いされた点が受け止められ、分野間連携が進んだ」などとコメントした。

これらを踏まえて藤野氏は、「ヘルスインプクト

アセスメントは、Health in All Policiesにもとづく分野間連携を実現するための実践的手続き」「健康格差対策とくに脆弱集団の把握に不可欠」などと強調。自身がまとめた日本公衆衛生学会版ガイドラインである「健康影響予測評価ガイダンス」などを用い、ヘルスイパクトアセスメントを活用してほしいと呼びかけ、講演を締めくくった。

要介護高齢者の「生活の質」を高める住まい 照明と臭気対策が鍵

千葉大学予防医学センター社会予防医学研究部門の
河口謙二郎氏がJAGESデータを分析

千葉大学予防医学センター社会予防医学研究部門特任教授の河口謙二郎氏は、要介護高齢者の住宅環境とQOLとの関連性を調べ、照明が明るく、臭気が少ない住宅環境がQOLと強い関連があることを明らかにした。

高齢者は、自宅で過ごす時間が長く、住宅環境から受ける心身への影響が少なくない。とくに要介護高齢者を対象とした報告はあまりない。

そこで、2022年11～12月に15市町村と共同で実施された「在宅ケアとくらしの調査（JAGES-Home Care: JAGES-HC）」を用い、65歳以上の在宅要介護高齢者3202人を分析。住宅環境については、住居者自身の視点で住宅環境を評価するCASBEE住宅健康チェックリストを活用した。具体的には、「夏に冷房が効かなくて暑い」「冬に暖房が効かなくて寒い」「窓やドアを閉めても、室内や外の音・振動が気になる」「ににおいがこもる」「夜間照明が足りず暗い」「防犯に不安を感じる」の6項目について、「多くある（0点）」「部分的にある（1点）」「ほとんどない（2点）」「ない（3点）」の4段階で収集し、合計点を0～18点の総合スコアで算出した。一方、QOLは、EQ-5DとWHO-5の2つの指標を用いて測定。EQ-5Dは「移動」「セルフケア」「普段の活動」「痛み・不快感」「不安・抑うつ」の5項目を5段階で評価し、0～1でスコアを算出。WHO-5は「気分が良い」「リラックスしている」「活動的である」「目覚めが良い」「物事に興味がある」の5項目を0～5点で評価し、合計0～25点を算出した。

分析の結果、住宅環境の総合スコアが高いほど、EQ-5DとWHO-5のスコアが高かった。住宅環境の総合スコアが1点上がるごとに、EQ-5Dのスコアは0.0075（95%信頼区間: 0.0058-0.0091）、WHO-5のスコアは0.28（95%信頼区間: 0.23-0.33）上がることを突き止めた。すなわち、住宅環境が良好であるほど、要介護高齢者のQOLが高いことを示唆した。さらに、住宅環境の各項目とQOLとの関連を分析した結果、照明環境と臭気環境がそれぞれEQ-5DとWHO-5に最

も強い関連性を示した。

分析にあたった河口氏は、要介護高齢者のQOL向上のための住宅改修の重要性を示唆。とくに、照明の改善や臭気の抑制は、QOL向上に有効とし、介護事業者や住宅改修事業者はこれらの要素を考慮したサービス提供を行うことが重要と指摘した。

「貯筋運動普及研修会」および「健康づくり 基礎研修e-ラーニング」を開催

健康・体力づくり事業財団が超高齢社会の中、
生涯動ける体でいられる「貯筋運動」を普及

健康・体力づくり事業財団は、「貯筋運動普及研修会」「健康づくり基礎研修e-ラーニング」を開催する。

貯筋運動は、トレーニング科学の第一人者である福永哲夫・鹿屋体育大学元学長・東京大学名誉教授がパッケージ化した筋力トレーニング。高齢者の介護予防や中高齢者の健康運動指導プログラム、子どもたちのウォーミングアップに活用できる道具を使わないプログラムである。

【貯筋運動普及研修会】

<https://www.health-net.or.jp/kensyu/tyokin/fukyu.html>

・内容 貯筋のすすめ（動画講義…福永哲夫・鹿屋体育大学元学長／東京大学名誉教授）、高齢者の筋力トレーニング、高齢者の教室運営の実際、貯筋運動の基本の動き ほか

・受講料 5500円（税込）

・会場・開催日 新潟県湯沢町・9月23日（火・祝）、湯沢町公民館／宮城県・11月16日（日）、東京エレクトロンホール宮城／熊本市・11月30日（日）、熊本市龍田地域コミュニティセンター／山口県岩国市由宇町・12月21日（日）、由宇文化スポーツセンター・ゆうたん／千葉県・2026年1月12日（月・祝）、千葉市美術館／栃木県・2026年2月11日（水・祝）、栃木県総合文化センター

【健康づくり基礎研修e-ラーニング開講】

https://www.health-net.or.jp/kensyu/tyokin/kiso_e-learning.html

・開講期間 第1回9月1日～30日、第2回11月1日～30日、第3回令和8年2月1日～3月1日

・内容 健康とは 運動生理学・機能解剖学 ほか5教科360分

・受講料 11000円（税込）

【問い合わせ】公益財団法人健康・体力づくり事業財団 事業部 TEL03-6430-9114

・申込 <https://www.health-net.or.jp/kensyu/index.html>

（記事提供＝株式会社ライフ出版社）

